

プレスリリース

映画「山里は持続可能な世界だった」(84分)

■制作意図

高度経済成長以前の農山村の暮らしを記録した膨大な白黒写真が残っている。そこには生き生きとした村人たちの姿が写し出されていた。そこで当時を記録した膨大な写真を手掛かりに、当時を生きた人達と当時の生業の継承者達の話に耳を傾ける。そこには自然と共生し、村人たちは助け合いながら暮らしていた。「効率重視」、「無縁社会」と言われる現代社会が忘れがちな大切な価値を伝える。

■構成要素

映画は三つの要素で構成した。

第一に、かつての山里の暮らしを記録した白黒写真を出来るだけ多く紹介して、当時の暮らしと生業を克明に伝える。

第二に、当時の山里を生きた人たちにかつての暮らしを語ってもらう。彼らの証言を写真と組み合わせることで、かつての暮らしぶりが生き生きと蘇ってくる。

第三に、かつての生業（鍛冶屋、炭焼き、養蚕、原木椎茸栽培、伝統的林業、生活雑貨制作、など）を受け継いでいる方々を取材し、仕事に込める深い想いに迫る。

■ストーリー

「過疎化が進む山里は本当に貧しく、寂しい所なのだろうか？」という問いかけから映画は始まる。そこで昭和40年代以前に青少年時代を山里の村で過ごした70代から90代の人たちに、当時を記録した写真を見てもらいながら、話を聞くことにした。

すると、「貧しく厳しい時代だったが、張り合いがあった」、「子どもや若者が大勢いて、家族を超え皆が助け合いながら暮らしていた」と皆、生き生きと話し始めた。「子どもの頃は家の仕事の手伝うことは当たり前、それが生る力となった」、「多くの家族は山林を所有していなかったが、暮らしに欠かせない薪は共有山で得ることができた」とも語る。今も当時の生業の継承者たちは山里の環境を守る知恵を受け継いでいた。森は20年に一回、伐採することで新たな命が蘇り再生する。森の生き物たちと共存できるようにむやみに資源を乱獲しない。風雪に耐えて育った山の恵みに感謝の心を忘れずに生きる、など、持続可能な世界を実現するための知恵が沢山あった。そんな山里の暮らしから私たちは何を受け継げばいいのだろうかとの問いかけで映画は終わる。

映画では戦後の林業政策や木材の輸入自由化にも触れ、国の政策が森林の荒廃と山里の衰退につながった歴史も伝える。

◎取材地域：埼玉県（秩父市、小鹿野町、長瀨町、飯能市、東秩父村）／群馬県（安中市）／福島県（三島町）

◎撮影：2021年6月～2023年5月／編集：2023年6月～12月／完成：2024年1月

◎スタッフ：原村政樹（監督・撮影・編集）、鈴木<神出>敏夫（プロデューサー）、的場浩司（語り）、鈴木光男（音楽）、丸山昇（整音）、丹生美津子（宣伝美術）、植田智道（HP作成）、他

■完成上映会→ 2024年6月28日（金）

日比谷コンベンションホール（大）にて（東京都千代田区 日比谷公園 1-4 03-3502-3340）

アクセス <https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/access/>

◎18時30分開場、19時上映開始 ◎当日券1,200円／前売り券1,000円 ※報道関係者は無料

◎申込→ suzutoshi0602@nifty.com

■映画館上映情報

1. 2024年9月6日(金)～9月19日(木) 2週間ロードショー

ヒューマントラストシネマ有楽町にて(東京都千代田区有楽町2丁目7-1 Tel. 03-6259-8608)
アクセス →https://ttcg.jp/human_yurakucho/access/

2. 2024年10月5日(土)～10月18日(金) 2週間上映(火・水休館)

川越スカラ座にて(埼玉県川越市元町1-1-1 Tel. & Fax. 049-223-0733)

■メディアの取材申し込み先

- 鈴木<神出>敏夫(プロデューサー) E-mail: suzutoshi0620@nifty.com
Tel. & Fax. 049-242-4811/携帯: 090-4947-1074
- 原村政樹(監督) E-mail: smile_fieldvillage.terra2057@nifty.com/携帯: 080-5073-3751
※尚、事前に試写をご希望の方には、DVDを郵送 又はE-mailで映像データをお送りいたします。

■主要スタッフ経歴

●監督: 原村政樹

1957年千葉県生まれ。1988年、東南アジアの熱帯林破壊をテーマにした『開発と環境 ～ 緑と水と大地そして人間』(JICA企画)で監督デビュー。医療・看護・建築・伝統文化・国際協力などの短編映画・テレビ番組の制作を経て、2004年「海女のリャンさん」(文化庁記録映画大賞・キネマ旬報ベストテン第一位)で長編記録映画の製作を開始。以後「いのち耕す人々」、「里山っ子たち」、「天に栄える村」、「無音の叫び声」、「いのちの岐路に立つ ～核を抱きしめたニッポン国」、「武蔵野 ～江戸の循環農業が息づく」、「お百姓さんになりたい」、「タネは誰のもの」、「食の安全を守る人びと」、「若者は山里をめざす」など、主に農業をテーマに作品を発表。川越市在住。

●語り: 的場浩司

1969年3月28日生まれ。埼玉県出身。数多くのドラマ・映画・舞台で活躍。出演作に映画「獅子王たちの夏」「稲村ジェーン」「就職戦線異常なし」「陽光桜」「麻雀放浪記2020」「犬も食わねどチャーリーは笑う」他。ドラマ「はいすくーる落書」(TBS)大河ドラマ「信長 KING OF ZIPANGU」「利家とまつ～加賀百万石物語～」 「篤姫」「軍師官兵衛」(NHK)「水戸黄門」(TBS)「天～天和通りの快男児～」(テレビ東京)他。舞台「銀河鉄道の父」「毘」「MOTHERLAND」などがある。近年ではバラエティ番組への出演やスイーツ好きを生かした商品プロデュースも行っている。

●プロデューサー: 鈴木<神出>敏夫

映画『武蔵野』『若者は山里をめざす』のプロデューサー。一貫して原村政樹監督の映画製作と上映活動を支援してきた。長年にわたり農文協編集部で全国の農業農村の移り変わりを見守ってきた。農的暮らしを提案する生活雑誌「季刊・うかたま」の初代編集長等を歴任。(株)農文協プロダクション相談役&(一社)農山漁村文化協会顧問。川越市在住。

制作・著作: 映画「山里は持続可能な世界だった」製作委員会

E-mail: suzutoshi0602@nifty.com/Tel. & Fax. : 049-242-4811/携帯: 090-4947-1074